

製品名: VASP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19720**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	46+50kDa

抗原情報

遺伝子名	VASP
別名	VASP; Vasodilator-stimulated phosphoprotein; VASP
遺伝子 ID	7408.0
SwissProt ID	P50552
免疫原	VASP 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 100-180

背景

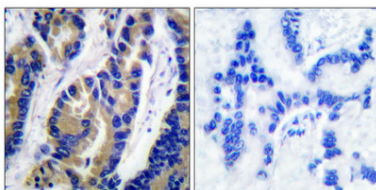
血管拡張刺激リン酸化タンパク質 (VASP) は、Ena-VASP タンパク質ファミリーのメンバーです。Ena-VASP ファミリーのメンバーは、E/DFPPPPXD/E モチーフを含むタンパク質に結合し、Ena-VASP タンパク質を接着斑に誘導する EHV1 N 末端ドメインを有しま

す。タンパク質の中央領域には、SH3 および WW ドメインを含むタンパク質に結合するプロリンリッチドメインがあります。C末端の EVH2 ドメインは四量体形成を媒介し、G アクチンと F アクチンの両方に結合します。VASP はフィラメント状アクチンの形成に関与しており、細胞接着と運動において広範な役割を果たしていると考えられます。VASP は、インテグリンと細胞外マトリックスの相互作用を制御する細胞内シグナル伝達経路にも関与している可能性があります。VASP は、環状ヌクレオチド依存性キナーゼ PKA および PKG によって制御されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、ドメイン: EVH2 ドメインは 3 つの領域で構成されています。ブロック A は、G アクチン結合に必要なチモシン様ドメインです。このブロック内の KLKR モチーフは、G アクチン結合とアクチン重合に不可欠です。ブロック B は F アクチン結合と細胞内局在に、ブロック C は四量体化に必要です。ドメイン: WH1 ドメインは XIRP1 との相互作用を媒介します。機能: Ena/VASP タンパク質は、細胞骨格リモデリングと細胞極性に依存するさまざまなプロセスに関するアクチン関連タンパク質であり、軸索誘導、遊走細胞におけるラメリポディアおよびフィロポディアのダイナミクスなどです。VASP はアクチン核形成を促進し、キャッピングタンパク質の存在下でアクチン重合速度を高めます。血小板中のリステリア・モノサイトゲネスのアクチン活性に関与する。PTM: 血小板中の cAMP 依存性プロテインキナーゼ (PKA) および cGMP 依存性プロテインキナーゼ (PKG) の主要基質。PKA の優先部位は Ser-157、PKG の優先部位は Ser-239 である。ADP 活性化血小板では、PKA または PKG による Ser-157 のリン酸化がフィブリノーゲン受容体阻害を引き起こす。Thr-278 のリン酸化には、Ser-157 および Ser-239 のリン酸化が先行する必要がある。ホルポールエステル (PMA) 刺激にตอบสนองして、PKC/PRKCA によってリン酸化される。トロンビンに反応して、PKC と ROCK1 の両方によってリン酸化されます。類似性:Ena/VASP ファミリーに属します。類似性:1 つの WH1 ドメインを含みます。細胞内局在:MRL ファミリーのメンバーを含むいくつかのタンパク質との相互作用を介して、ストレスファイバーと接着斑を標的とします。突出したラメリポディアと糸状仮足の先端の細胞膜に局在します。トロンビンまたは PMA による刺激によっても、VASP は接着斑に移行します。サブユニット:ホモ四量体。PFN1、PFN2、LPP、ACTN1、および ACTG1 と相互作用します。EVH1 を介して、ZYX の Pro に富む領域と相互作用します。この相互作用は、接着斑への標的化と、細胞の頂端表面でのアクチンに富む構造の形成に重要です。EVH1 ドメインを介して、リステリア モノサイトゲネス actA の Pro に富むドメインと相互作用します。APBB1IP と相互作用する。プロリンリッチドメインを介して DNMBP の C 末端 SH3 ドメインと相互作用する。組織特異性: 血小板で高発現する。、

研究分野

接着斑;Fc ガンマ R を介した貪食;白血球の内皮透過性遊走;

画像データ



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。